

GIP-TRIAD

Newsletter

May 2016

Vol.

3

CONTENTS

1 はじめに

2 活動紹介

- 青木三郎教授らがボルドー大学、ボルドー・モンターニュ大学などを訪問
- ボルドー大学 Victoire キャンパスにおいて“日本文化紹介の夕べ (Soirée)”を開催
- 岡瑞起准教授（システム情報系）がボルドー大学を訪問
- ボルドー大学、国立台湾大学で開催されるサマープログラムのオリエンテーション
- ボルドー大学柔道チームが本学を訪問
- 国立台湾大学での JukeBox 構想会議
- 生物資源学類の江前敏晴教授の国立台湾大学訪問
- International Medical Science Training Course
- 永田恭介学長、ベントン・F・キャロライン国際担当副学長の台湾訪問
- 附属坂戸高校一行と交流協会を訪問

3 海外留学関連情報

4 編集後記



1 / はじめに

GIP-TRIAD ニュースレター第3号では、筑波大学・協定校である国立台湾大学、ボルドー大学との国際交流イベント、学生留学支援など、国際交流活動について紹介いたします。

2 / 活動紹介

… 青木三郎教授らがボルドー大学、ボルドー・モンターニュ大学などを訪問

3月21日から24日までの日程で、本学人文社会系の青木三郎教授（文芸・言語専攻、北アフリカセンター長、人文社会国際比較研究機構・副機構長）、海後宗男教授（国際日本研究専攻、人文社会国際比較研究機構・人文情報学研究分野長）、および稲葉梨恵研究員が、筑波大学ボルドーオフィス、ボルドー大学、ボルドー・モンターニュ大学（旧ボルドー第三大学）、ボルドー政治学院（Science Po Bordeaux）の世界アフリカ研究センター（LAM）を訪問しました。22日のボルドーオフィス訪問に際しては、Ronan Hervouet エミール・デュルケム研究センター長、



左より海後教授、青木教授、木島教授、Binet副学長、昇地教授、稲葉研究員

Clare Schiff 人文社会科学国際化主任、Sandrine Rui 人文社会系長と Tsukuba Global Science Week (TGSW) における共同セッションの進捗状況や今後の連携についての情報共有を行いました。また、22日と23日の両日にわたり、ボルドー・モンターニュ大学において、青木教授、海後教授、稲葉研究員それぞれによる講義が行われました。23日にはボルドー・モンターニュ大学Ana Maria Binet副学長（国際）を表敬訪問すると共にボルドー・モンターニュ大学教職員と本学との交流推進や連携の可能性について意見交換を行い、翌24日にはボルドー大学 Vincent Dousset 副学長（国際）を表敬訪問すると共に Michel Brousse スポーツ学部教授や民間企業家らと人文社会科学領域における交流促進や交流予定などについて話し合いました。



ボルドー大学・欧州地中海オフィスにおいて行われた意見交換の様子

… ボルドー大学Victoireキャンパスにおいて“日本文化紹介の夕べ（Soirée）”を開催

4月29日にボルドー大学Victoireキャンパスにおいて日本文化紹介のSoirée（夜に行うパーティー）が開催されました。この催しは同大学に留学中の日本人学生により企画され、本学の学生も参加しました。学生たちは前日から日本食作りに励み、当日は茶道や漢字に挑戦するブース、熊本震災の紹介・募金のコーナーを設け、来場者参加型のイベントを行いました。さらに日本人学生による篠笛と三味線の演奏、外部招待団体による“よさこい踊り”の披露があり、非常に盛り上がりしました。フランスは日本のポップカルチャーの人气が高く、日本文化に興味を持っている人が多いことから、今回のSoiréeには約150人の来場者がありました。このSoiréeをきっかけに日本文化への理解・興味がより一層高まったのではないかと考えられます。



主催者による日本文化の紹介



招待団体による“よさこい踊り”の披露



パーティーにて

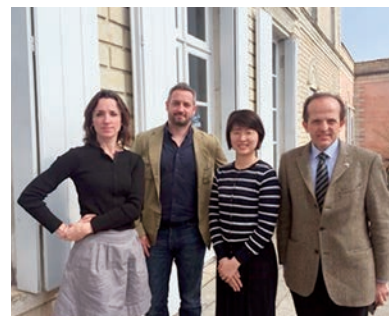
… 岡瑞起准教授（システム情報系）がボルドー大学を訪問

3月24、25日に、本学システム情報系の岡瑞起准教授がボルドー大学を訪問しました。岡准教授は本学の進める大学間科目共有システム（JukeBox）の構築を担当しており、今回は、ボルドー大学との意見交換ならびに担当者との打ち合わせを行いました。また、24日にはVincent Dousset 副学長を表敬訪問、25日には本学ボルドーオフィス



ボルドー大学において行われたJukeBoxシステム構築に係る打ち合わせ。

視察しました。今後、ボルドー大学、国立台湾大学を含めたCiC協定大学との科目共有システムの構築が進められていく予定です。

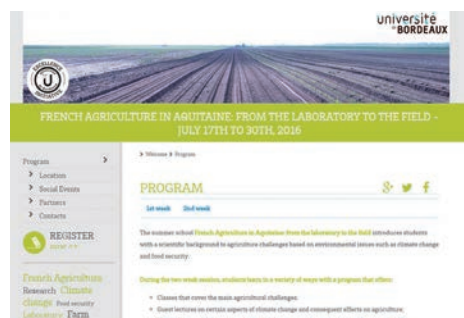


Vincent Dousset 副学長を表敬訪問。
左よりGlenda Gilmore氏 (International Communications Manager)、Emmanuel Frouté氏 (ボルドーオフィス職員)、岡瑞起准教授、Vincent Dousset 教授・国際担当副学長。

… ボルドー大学、国立台湾大学で開催されるサマープログラムのオリエンテーション

4月25日に、この夏ボルドー大学、国立台湾大学で開催されるサマープログラムのオリエンテーションが学類生を対象に実施されました。Skypeを用いて、Dominique Rolin 教授よりボルドー大学で開催されるサマープログラム（7月17～30日）の紹介がありました。

その後、阿部淳一ピーター助教より、国立台湾大学で開催されるBACT Summer Programの紹介がありました。海外留学に興味を持っている40～50名の学類生が参加しました。近年、サマープログラムは、本学・協定校における恒例の交流イベントの1つとなっており、このような活動を通じて大学間の連携・交流が一層活発になることが期待されます。



ボルドー大学・サマープログラムウェブサイト
(<http://bss-frenchagri.u-bordeaux.fr/en/Program/r642.html>)



国立台湾大学・BACT・サマープログラムの紹介する阿部淳一ピーター助教



ボルドー大学・サマープログラムの紹介するDominique Rolin 教授



オリエンテーション参加学生の様子

… ボルドー大学柔道チームが本学を訪問

4月19日から5月3日までの予定で、ミッシェル・ブルース教授（フランス柔道連盟副会長）、ジャン＝ピエール・ミリオン コーチ（CREPS：仏スポーツ資源・専門技術・競技力向上センター）率いるボルドー大学の柔道チームが本学を訪問しました。滞在中は本学柔道部と合同稽古と交流試合を行うと共に、増地克之准教授（柔道部監督）による古典的柔道の形やオリンピックメダリストたちによる得意技についてのワークショップそしてスポーツ科



永田学長を表敬訪問
(写真中央 永田学長の右隣がミッシェル・ブルース教授)

学の講義や人文社会科学の学生との交流セッションに参加したほか、体育総合実験棟（SPEC）・ロボットスーツ展示試着用スタジオ（サイバーダインススタジオ）・講道館柔道資料館・全日本柔道選手権などを視察しました。その間、21日には永田恭介学長を表敬訪問すると共に、本学教員と2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた各種スポーツの交流推進や連携の可能性について意見交換を行いました。



「若者たちの日仏交流」セッションに参加



市内見学の様子



ボルドー大学柔道チームと本学柔道部との交流試合の様子。
審判員を務めているのがジャン=ピエール・ミリオン コーチ

… 国立台湾大学でのJukeBox構想会議

2月22日に本学の進める国際的な科目共有システム（JukeBox構想）の議論のため、筑波大学より岡瑞起准教授（システム情報系）、佐々木淳子（教育クラウド室）、橋野吉昭（教育推進課）、秋葉一能（教育推進課）が国立台湾大学を訪問しました。将来的にはボルドー大学を含め、CiC協定を結んだ海外の大学と科目がシェアされます。GIP-TRIAD科目といった国際的な学位プログラム科目も掲載される予定です。



会議参加者

… 生物資源学類の江前敏晴教授の国立台湾大学訪問

2月21日～2月25日にかけて、江前敏晴教授が国立台湾大学を訪問し、生物資源学類生が海外フィールド演習の実施先として国立台湾大学の施設を利用する可能性について、森林環境及び資源学系の系主任である袁孝維（Hsiao-Wei Yuan）教授と相談されました。実験林（演習林）のある溪頭（Xitou）地区を訪れ、木材加工場、木材加工品展示館、森林浴などができる景観区などを見学されました。GIP-TRIADのフィールド実習の場としての活用が期待されます。



木材加工場



木材加工品展示館



溪頭の景観区



実験林管理事務所

… International Medical Science Training Course

本コースでは、3月10－19日の10日間、国立台湾大学（National Taiwan University; NTU）の研究力、台湾の独特の気候帯（亜熱帯～熱帯。3000メートル級の山々の存在）にみられる生物資源、中国医学の伝統に着目し、「生物資源の医科学研究への活用」を目的に、10名の医療科学類生が訪台し、実地演習と実験室実習を行いました。具体的には、NTUの保有する実験演習林でフィールドワークを行い、台湾特有の生物多様性を学習し、医療健康目的に適う生物資源（例えば冬虫夏草など）を探索しました。台北のNTUの研究室では、収集した生物資源試料の生物学



NTU溪頭実験演習林での野外実習



細胞培養の準備をしている様子

的同定、抽出液の成分分析、癌細胞や活性酸素に与える効果の医科学的解析を実施しました。派遣最終日には成果発表会を行い、科学プレゼンテーションの方法（成果のまとめ方、考察、報告方法）を学習しました。期間中、国立自然科学博物館、台湾バイオテク企業、中国茶の研究所、木材利用実習工場、九份などを訪問しました。NTUからも多数の教員と学生が参加し、参加学生にとっては、英語によるコミュニケーションのみならず、台湾の文化、企業、自然、サイエンスを学び、そして、自身の将来を考える有意義な機会になりました。本フィールドについても、GIP-TRIADにおける施設の活用が期待されます。

… 永田恭介学長、ベントン・F・キャロライン国際担当副学長の台湾訪問

4月22日－24日に本学永田学長とベントン・F・キャロライン国際担当副学長が、AEARU（The Association of East Asian Research Universities）の理事会（国立清華大学にて）のため台湾を訪問しました。

この期間中、AEARU共催でクォーターマラソンが開催され、筑波大学学部生が4名参加しました。75名の参加者中、1位と2位は筑波大学学生という結果でした。

永田学長とベントン副学長が、台湾での戦後の日本語教育界の第一人者の蔡茂豊先生を表敬し、日本語教育などについてインタビューを実施しました。蔡先生は東京教育大学で修士号、筑波大学で博士号を取得され、2005年には旭日中綬章を日本政府より授与されています（日台断交後では初受賞）。台湾現地の校友会や、蔡先生の母校である東呉大学の関係者、GIP-TRIADメンバーである国立台湾大学のTsai-Kun Li教授も駆けつけてくださいました。GIP-TRIADにおいても、現地語の学習のオプションを設ける予定となっています。母国語でも英語でもない言語の学習についての貴重なご意見を伺うことができました。



マラソン大会で表彰台に立つ筑波大学学生



永田学長一行が蔡茂豊先生を表敬訪問

… 附属坂戸高校一行と交流協会を訪問

4月29日に附属坂戸高校より石井克佳副校長、今野良祐教諭が訪台され台湾オフィスを訪問しました。台湾における日本領事館的存在の交流協会およびNTUの服部美貴先生を訪問し、中等および高等教育における国際交流、国際的な高大連携について議論を行いました。GIP-TRIADとの直近での繋がりは薄いですが、将来的な学生の確保とサポートに繋がることを期待します。



附属坂戸高校一行・台湾オフィス、交流協会を訪問



国立台湾大学・服部先生を訪問

3 / 海外留学関連情報

フランス政府給費留学生の募集（2017）

フランス政府給費留学生制度は、フランス留学（修士課程、博士課程、ダブルディグリープログラム）およびフランスでの研究を希望する日本人学生とポストドク研究者を対象としています。給費生は日仏審査員による書類審査と面接試験により選抜されます。受験者には詳細な研究計画の提出が求められます。また、フランスの受け入れ機関と事前にコンタクトをとっておく必要があります。選抜された給費生には、6月から12カ月の給費が与えられます。

詳細については、ホームページ（<http://www.science-japon.org/bgf/>）に掲載の募集要項参照



日本モンサント・持続可能な農業を目指す人材育成のための奨学金制度

(1) 申請資格・募集対象

1. 生命環境科学研究科グローバルフードセキュリティコース（ダブルディグリープログラム）に所属する大学院生（博士前期課程生物資源科学専攻）
2. 海外留学に高い意欲を有し、学業、人物ともに優れた学生
3. 海外留学にあたり経済的な支援を必要とする学生

但し、JASSO、企業、財団等の奨学金に応募したにも拘わらず、留学所要最低経費を確保できない学生を優先するものとする。

(2) 募集人数 2名程度

(3) 支援内容

- (1) 支給金額 ・ 渡航費（渡航時期のエコノミークラス再安値往復運賃相当金額を支給）
・ 滞在費の一部

(4) 選考方法

- (1) 応募期間 5月23日～6月3日（書類提出期限：6月3日17:00まで）
- (2) 応募方法 各年度の応募期間に、担当者宛に下記の応募書類を提出する。
 - ① 申請書（所定様式）
 - ② 学業成績証明書
 - ③ 研究計画書（所定様式）
 - ④ 英語スコア（IELTS、TOEIC、TOEFL、JLPT等）
 - ⑤ 指導教員の推薦書（所定様式）

- (3) 審査方法 本学教員および日本モンサント株式会社から選出された役員で構成される審査委員により、書類審査および面接を実施し、奨学生を選考する。

(5) 本支援を受けた学生の義務 修了する前に、日本モンサント社にて成果報告を行う必要があります。

(6) 問い合わせ先

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘

E-mail: okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp Tel: 029-853-6005

筑波大学 生命環境系 遺伝子実験センター 新館201号室



4

編集後記

本学の協定校である国立台湾大学、ボルドー大学との交流が一層活発となり、教育・研究面でのさらなる連携の強化が期待されます。現地における本学駐在教員、学生、海外オフィスの情報をより一層充実させていく予定です。皆さまにとってより有益なニュースレターにしたいと考えておりますので、ご意見・ご要望等ございましたら、以下までご連絡をお願い致します。

筑波大学 生命環境系 助教 岡部佳弘【連絡先】 E-mail: okabe.yoshihiro.gp@u.tsukuba.ac.jp / Tel: 029-853-6005